



パレット返却は環境保護に直結

パレット回収数 年間約450万枚

製紙パレット機構

身近なSDGs対応

印刷会社が「製紙パレット」を返却することは、環境貢献を果たし、身近なSDGsに貢献することになる。半世紀にわたり製紙パレットの無料回収を行ってきた製紙パレット機構が回収するパレットは年間約450万枚。それにより立木45万本が救われ、二酸化炭素11万1524トンの温暖化ガスが減少している。岩田憲明社長にパレット回収と環境貢献について聞いた。

「地球は先祖から譲り

受けたものではなく、私たちの子孫から借りているものだ(We Do Not Inherit the Earth from Our Ancestors; We Borrow It from Our Children)」というネイティブ・アメリカンのことばがある。地球は未来の子供たちから借りているもので、未来のために環境対応は必須の課題である。

アップルは、2030年までに石炭火力などの『汚れた電気』で作られた電子部品は調達しないという方針を出している。物流部門においても、フォルクスワーゲンでは、自動車を海上輸送するときの運搬船は、重油ではなく環境負荷の少ない液化天然ガスを使うことを入札条件とするなど、環境貢献を配慮していない企業はビジネスに参加すらできない時代に変わってきている。

日本の製紙会社は、原料面では違法伐採された木材は使わず、2030年までに1990年比で2倍超の面積の植林を育てるなど健全な森林を育てており、板紙などの主原料となる古紙の回収率は85%にもなっている。また紙を生産するエネルギーも従来の黒液(パルプ化工工程の廃液)に加え、バイオマスなど再生エネルギーへの転換を図るなど温暖化ガス排出量を2050年までに実質ゼロとする目標に向かって邁進している。

しかし、半世紀も前から紙の平判やコピー用紙を取引先に運ぶ製紙パレットについても業界として会社の垣根を越えて共同回収に地道に取り組んできたことは意外に知られていない。

体的な対策を...木製パレットを回収し再利用する循環型システムによってCO₂排出量を削減

昭和48(1973)年に通産省の産業構造審議会流通システム化推進会議の答申を受けて創設された弊社は、その後回収網を全国に展開し出荷された製紙パレットを取引先から無料で回収し、製紙会社の工場に返却する活動を続けてきた。

また製紙会社の工場では、返却された木製パレットを何回も再利用し、貴重な木材資源と地球環境を守ってきた。SDGsは、持続可能な社会実現のための17の目標であるが、パレットを製紙会社に返却することで次の目標達成に貢献できる。

▽「12. つくる責任つかう責任」...パレットの回収・再利用で、循環的な消費と生産を推進

▽「13. 気候変動に貢献」...スギの立木にして45万本が救われ、二酸化炭素が11万1524ト減少する。二酸化炭素を体積換算すると25プールが約11万6400個分に相当する膨大な量となる。パレットの寸法はいろいろあるし、使われる樹種も多岐にわたっているかもしれないが、代表的パレット材種のスギを例

地球環境保護に貢献

地球環境保護について賛同いただける企業も多いと考え、環境貢献のためさらなるパレットの回収率向上をお願いするため、パレット回収による環境貢献の定量化を試みた。

コロナ前の2019年50万枚の回収として、

度度の回収数が453万枚だったの、それに基づき、パレットを回収するとどれだけの立木が救われて、どれだけ二酸化炭素が減少するかを試算した。

製紙会社にパレットを返却することによって、二酸化炭素などの地球温暖化ガス削減に貢献できる。パレット回収はコストダウンだけでなく、ひいては地球環境の保護につながっていることを理解してほしい。